

令和 6 年度 市政懇談会 ゆかり市長とまちかどトーク 議事録要旨

開催日時・会場・参加人数

開催日時 令和 6 年 6 月 21 日(金) 19 時から 20 時 25 分まで

会 場 諏訪市豊田公民館 講堂

参加人数 29 人

令和 6 年度の主要事業について

■かりんちゃんバスの運行ルートの見直しについて

【発言者】

買い物や通院等でかりんちゃんバスを利用している高齢者から、公共交通に関する要望をお聞きした。自宅からバス停までの往復(特に買い物の荷物がある復路)が年々大変になってきたため、地区まで乗り入れをしてもらえるとありがたいとのこと。かりんちゃんバスで使用しているような車両をデマンドバスの扱いにして、利用者から事前の申し込みがあった際に、本来のバスのルートを外れて運行し、乗客を乗せてから本来のルートに戻ることやリクエストストップにより、自宅の最寄りで降車することができるようすることが考えられないか。

【市長】

10 月 1 日から「チョイソコかりんちゃん」という愛称の AI オンデマンド交通のテスト運行を開始する。「チョイソコかりんちゃん」は、インターネット又は電話で予約をすることで、市内の乗りたいバス停から降りたいバス停まで利用できる。効率的に目的地まで行くことができるものなのでぜひ利用していただきたい。登録制のため、利用する人は事前に登録をしていただく。詳しくは広報紙等でお知らせをする。

フリーテーマ

■定期的な河川の確認について

【発言者】

川沿いに住んでいるため、鉄砲水の心配をしている。川に倒木や枝が多く、大雨が降ったら鉄砲水になりそうであったため、区を通じて市に要望したところ、撤去してもらい、非常に感謝している。偶然気付いたので要望できたが、そうでなければ、いざ大雨で災害が起きてから「河川の管理をしていなかったからこのような事態になった」という状況になってしまう。市で管理する河川は定期的な確認をお願いしたい。住民としても確認するが、双方で確認しないと安全を保つことができないのでお願いしたい。

【市長】

災害を未然に防ぐために日頃から準備をするのが防災・減災の趣旨なので、担当課に申し伝える。市の職員が毎日歩いて見て回ることは難しいので、地元地区の皆さんにもご

協力をいただき、気付いたことは早くお知らせいただき、早く対応するというサイクルを作りたい。

■電気自動車の充電設備について

【発言者】

以前は、市役所に電気自動車の充電設備が設置されていた。しばらくしたら使用できなくなり、その後撤去された。今後、電気自動車の充電設備の設置の計画はあるか。

【市長】

市役所の電気自動車の充電設備は壊れたため、修理ではなく撤去した。これから電気自動車が普及するので、よく検討して何かしら用意したいが、しばらくお時間をいただきたい。

■駅前交流テラスすわっチャオのマイクについて

【発言者】

駅前交流テラスすわっチャオで開催された会議に出席したところ、マイクの不調なのか大事な話が聞こえなかった。近くの人も聞こえなかった様子。原因が分かれば教えていただきたい。

【市長】

駅前交流テラスすわっチャオのマイクの不調に関する報告は届いていないが、早速調べて後日お知らせする。

→機材の不具合はないことを確認済み。音量の調整が適切でなかったなどの理由が考えられる。

■公共施設の時間単位の予約について

【発言者】

介護予防やフレイル予防で高齢者に運動するよう促されているが、運動するために必要な場所を借りようとするとも費用がかかるので負担を軽減してほしい。また、運動施設に限らず諏訪市の公共施設は、4 時間単位や午前／午後／夜間というような単位になっており、1 時間単位で借りることができない。1 時間だけ借りたくても長い時間借りることになり費用がかかる。さらに、老人福祉センターの廃止など施設が減って、活動の場所が確保できなくなっている。指導者に支払う費用や場所代を考えると1人あたりの単価が上がり、新しい人を誘いづらく、グループが育たない。運動を促されても活動できないので、施設の使用料を下げたり短時間での利用ができるようにしたりして活動が盛んになるようにしてほしい。

【市長】

4 月から駅前交流テラスすわっチャオの使用料を見直した。短時間の枠もできたのでご利用いただきたい。また、地区の公民館は、地元の皆さんが優先的に利用できるようになっているので有効に利用していただきたい。超少子高齢化社会を迎え、子どもの数が減っている中で、多くの施設を将来に亘って、これまでと同じように維持管理することができるかということを考えると、施設の除却、リフォーム、長寿命化などの工夫により未来につなげることが求められている。今ある施設を有効利用することも工夫の一つとして取り組んでいただければお願いしたい。提案をいただいたように貸し出す時間を短くして利用しやすく、また、金額を抑えるということも駅前交流テラスすわっチャオから取り組んでいる。

■豊田小学校の児童の諏訪湖スマートインターチェンジ竣工式への参加について

【発言者】

昨年、豊田小学校の 4 年生が諏訪湖スマートインターチェンジの工事を見学した。その子どもたちが 5 年生になった今年 6 月にも再び見学した。その際、来夏に予定の諏訪湖スマートインターチェンジの竣工式に参加したいとの話が出た。是非、実現させてほしい。

【教育長】

児童が諏訪湖スマートインターチェンジの竣工式に参加することについて、市教育委員会としては是非参加させたいと思うので、関係者と調整したい。

■最終処分場について

【発言者】

最近、最終処分場に関する議論が耳に入ってきて来ないが、現在はどうのような状況かお聞きしたい。

【市長】

最終処分場は、下流域の皆さんが上流にある諏訪市がいらぬものを流して落としてくるというイメージをお持ちで反対運動という形になっている。法的には推進することが可能だったかもしれないが、隣同士の自治体の住民がことあるごとに過去の悪い遺産を後世につなぐことを避け、良好な関係をつなぐため、無理強いをするのは良くない。了解を得られないのに強引に押し切るようなことはしないと申し上げた。

【副市長】

湖周行政事務組合、諏訪市としては、下流域の皆さんの了解が得られずに、無理に前進させていくことはしないという基本姿勢。ご理解をいただけるような交渉を継続してきている。今日、この段階でどのような状況であると申し上げることはできないが、下流域の皆さんとの意見交換は現在も続いているので、皆さんに報告できることが生じた場合には速やかに説明、報告を行う。

■公設地方卸売市場について

【発言者】

公設地方卸売市場を建設する際、法律に基づいて整備計画が作られた。その当時は、辰野町から山梨県の一部を含む地域を対象にする計画で、広い地域の食品の安定供給を目指すため、諏訪市が大きな負担をして運営をしてきた。運営のために大きな負担をしてきた諏訪市が、閉鎖のためにまた大きな負担をすることになってはいけないと思う。国が法律を定めて計画を作ってきたものなので、全国的に同じ課題に直面しているのであれば、閉鎖についても国が費用負担などを検討するのではないかと思う。国の考え方や方向性を教えてほしい。

【市長】

公設市場に関しては、農林水産省が卸売市場整備基本方針を示している。状況が変わっていることは国も承知していることではあるが、閉鎖に関する制度があるか否かは、調べてお知らせする。

→農林水産省が第 10 次卸売市場整備基本方針を示しているが、閉鎖に関する補助制度はない。

【副市長】

民間主体の市場は、生産者、卸売事業者、買受事業者、関連事業者で運営委員会を作っただけ、市は少し離れてオブザーブという形で相談に乗るということを考えている。来年の 4 月からこの形でスタートするが、これにより買受事業者が今後どのくらい減るか、残るのかを見極めながら次のステージを考えていく。ご質問の趣旨は、次のステージに進む時にかかる費用や手間を心配いただいているものだと思う。一旦は、お示した民間主体の動きになるが、数年間、見定めながら国への働きかけが必要になると思っている。並行して考えていきたい。

■受動喫煙のない思いやりと健康のまちづくり条例について

【発言者】

諏訪市湖畔公園の一部を受動喫煙防止重点区域に指定したことにに関して、ホテル、観光客、市民等からの意見があったかお聞きしたい。

【市長】

条例は、禁煙条例ではなく「受動喫煙のない思いやりと健康のまちづくり条例」。受動喫煙による健康被害をできるだけなくすために、喫煙の際に思いやりを持っていただきたいという趣旨。湖畔公園の一部を受動喫煙防止重点区域に指定したことによって、要望や意見をいただいたことはない。また、受動喫煙防止重点区域を指定する前から、諏訪湖畔の旅館等の関係者の間では禁煙の取り組みが進んでおり、反発はなかった。諏訪湖のごみ

拾いに行った際、「これまでは 1 時間で 100 本くらいのたばこの吸い殻があったが、ほとんどなくなった」と話す人がいた。多くの人にご協力をいただいていると感じている。何か意見が届いているようであればお知らせいただきたい。

■保育料の無償化について

【発言者】

他市町村との人の取り扱いではなく、諏訪市に住む若い世代が子どもを生み育てたいと思えるよう、保育料を無償化してほしい。

【市長】

現在は、3 歳以上児が無償化の対象で、未満児は無償化の対象外になっている。3 歳以上児が無償化になって数年経過したが、少子化に歯止めがかかっていない。このことを見極める時期に来ている。社会全体で考えていくことが大事。考え方を参考にさせていただく。

■全国新作花火競技大会の開催について

【発言者】

今年の全国新作花火競技大会は中止ということだが、どのような条件が整えば開催できるのかお聞きしたい。

【市長】

一番大きな理由は、資金のこと。全国新作花火競技大会をどのように位置づけていくかを考える必要がある。検討は継続しているので、皆さんから知恵をいただきたい。

【副市長】

大変多くのお客様にお越しいただいていた時期は、全国新作花火競技大会のチケットが多く売れて収入を得られていた。コロナ禍前の数年間は、チケットを売り切ることができず、お客様が減っていた。全国新作花火競技大会を開催する場合、大きな費用がかかることが大きなハードルとなっているため、継続して検討したい。

■スクリーンに投影する資料について

【発言者】

スクリーンに投影するスライドが見つらい。何のために投影しているか分からないので検討してほしい。

【秘書広報課長】

資料に見づらい部分が多かったので改善を図りたい。

以上

開催日時・会場・参加人数

開催日時 令和 6 年 6 月 25 日(火) 19 時から 20 時 03 分まで

会 場 諏訪市湖南公民館 講堂

参加人数 38 人

フリーテーマ

■チョイソコかりんちゃんについて

【発言者】

この秋から「チョイソコかりんちゃん」のテスト運行が始まるが、テスト運行の利用率が高い地域から本格運行を行うのか。

【市長】

「チョイソコかりんちゃん」のテスト運行の利用率が高い地域から本格運行するものではない。「チョイソコかりんちゃん」は、希望するバス停で乗降車を行うもので、利用者の行きたい場所がいつも一定の場所というわけではないので、地域によって区別することなく全市を対象に運行する。「チョイソコかりんちゃん」に関する説明会を行うことができるので、必要に応じて申し込みをいただきたい。「チョイソコかりんちゃん」の利用には、登録が必要なので、是非登録をお願いしたい。

■農業振興地域の除外について

【発言者】

自宅近くの農業振興地域を見ると、耕作をしておらずほとんどの畑が荒れている。今のように荒れた農業振興地域は、農地の相応しい使い方ではないので、除外をしても良いのではないか。

田んぼのように広い面積があれば、規模が大きい効率的な作業ができると思うが、段々畑のような畑は廃れていく一方になっている。農業振興地域として農業の振興をするのであれば、そのための支援をしたり作り手を探したりする方法もあるのではないか。

【市長】

農業振興地域は、農業を振興し、農地としての価値を高めるために定めたエリア。将来を見据えた都市計画の中では、頻繁な用途の変更は困難だが、農業委員会の判断により農業振興地域の除外ができることがある。市内では、豊田地区で、農地を集積、集約することで効率化を図り、競争力を強化して、次世代につなぐ形を作る経営体育成基盤整備事業に取り組んでいる。手が入らなくなった畑には、野生動物が入り込むという状況も承知している。課題として知恵を絞っていくが、アイデアがあったらご教示いただきたい。

■縄文文化に焦点を当てた地域振興について

【発言者】

近隣市町村と一緒に縄文文化に関するイベント等を開催して、地域の振興ができないか。機械化や AI 化を取り除けば、縄文時代の生活と現代の生活は大きく変わらない。特に、子どもたちは、火のおこし方や矢じりなど道具の使い方など生活の知恵を身に付けることができるので、何かイベントが開催できると面白いのではないか。

【市長】

縄文時代には、和田峠、星糞峠で黒曜石がとれた。縄文時代を考える時に、諏訪市も茅野市も下諏訪町もなく、山梨県と長野県の 14 市町村で構成された日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」のエリアとして共同で取り組むことは大歓迎。興味がある人たちが連携をして縄文に光を当てて取り組むことも、大いに歓迎したいし応援したい。

■空き家対策について

【発言者】

近所の人と話をした際、空き家の話題になった。空き家の敷地内から草が伸び、隣の家に入り込んでいるということだった。隣家は、独居の高齢女性で草取りもできずに困っている。そのような場合に、市で行政代執行というようなことができるのか。

【市長】

全国的に、空き家の管理が課題になっており、国で法を整備している。有害な物質が流出するなど危険が迫っているような場合には行政代執行が可能であるが、空き家から伸びた草を刈り取るようなことであると、所有者の責任に変わりはないので行政代執行の対象とならない。所有者と連絡が取れないというような場合に、市でお手伝いをするところがある。

【建設部長】

空き家でお困りのことがあれば、まず一報をいただいてからスタートするので、区を通じてでも、ご本人からでも連絡をいただきたい。

以上

開催日時・会場・参加人数

開催日時 令和 6 年 7 月 8 日(月) 19 時から 20 時 19 分まで

会 場 諏訪市四賀公民館 講堂

参加人数 17 人

令和 6 年度の主要事業について

■避難所に備蓄している災害用トイレの数量について

【発言者】

災害時に最も困るのはトイレのこと。市の避難所に備蓄している災害用トイレ(凝固剤や袋)はどのくらいの数量を用意してあるか聞きたい。

また、凝固剤で固めた排泄物を燃やすごみ等で排出するまでに一定期間保管しておかなければならないと思うが、その保管方法を聞きたい。

【市長】

確認して後日回答する。

→各防災倉庫には、手すり付きのものも含め 11 台の組み立て式トイレを配備。市内全部で 125 台を配備している。処理剤については、各防災倉庫に 1,000 枚以上、市内全部では約 12,000 枚を配備している。処理剤には廃棄用の大袋もセットでついている。その大袋を学校の屋外プレハブ小屋(用具置場等)で保管する。屋外倉庫に適当なものがない箇所は、サッカーゴールをブルーシートで囲い、保管場所とする。

■広域避難所及び一次避難所の開設・運営について

【発言者】

マニュアルの中に、広域避難所についての記載があった。広域避難所では、長になる人を決めて、いくつかの班を作って運営するというようなことが書かれていた(諏訪市広域避難所等運営マニュアル:Ⅰ.避難所の運営>(5)避難所運営委員会の代表者と班編成)。広域避難所となると各地区から人々が避難してくるが、どのように組織を作るのかについてはマニュアルに明記されていない。例えば、「今年はどこの地区がリーダーです」というように決まっているのであれば知らせておいてもらいたい。決まっていなければ、どのように運用するのか整理をしておいてもらいたい。「マニュアル」というのは、誰が行っても同じようにできる手順書で、災害時は、おそらく、その時々で最善の策を決めるしかないと思うと、どちらかというと「ガイドライン」ではないか。いざという時に、ただ広域避難所に行ったのでは、烏合の衆と化してしまい、どうにもならないという状況が懸念されるので、準備していることがあれば聞いておきたい。

また、広域避難場所の開設は、どのような基準で誰が判断するのかお聞きしたい。

【市長】

区長の立場からご心配いただき、また、準備を整えていただき感謝申し上げます。

いつどのような災害が発生するかは予測できず、どの地区のどの世帯の方がどのような状況で避難されるかということは災害の状況によって異なる。避難をした人たちが力を合わせ、リーダーを決めてマネジメントをしていくということが見えている中で避難所を運営する状況と全く何もないところから運営する状況とでは、効率が違ったりもする。避難所開設・運営の参考にしていただき、活用していただくためのものとしてマニュアルがあるが、区長がおっしゃるようにガイドラインだと思っていただくのがいいのではないかな。

広域避難所には、市の職員を配置するが、災害時には職員も被災者になることが考えられ、人員が十分でないということもあり得る。職員を頼りにしていただきながらも、区長をはじめ、地区の人たちにマネジメントを手伝っていただくというのが、今までの災害の現場や地域で行われてきたあり方。完成したもののとおりに進めていけば良いというのではなく、現場に合わせて柔軟に乗り切るということが大事ではないかな。

避難所の開設・運営を想定したときに、やりやすい方法など具体的な提案があれば、それを加味してマニュアルをより充実させていくことができるので、気付いたことをお寄せいただけたらありがたい。

【副市長】

市職員が広域避難所を運営するときのことについて補足する。広域避難所を開設する際、市職員のうち、文教対策部の職員が携わることになっている。文教対策部の職員を地域ごとのチームを分け、災害の状況に応じて配置する。マニュアルを一つのたたき台にして、地域の人たちと職員が一緒になって広域避難所の運営をしていくようなイメージを持っている。

【市長】

広域避難所の開設は、災害対策本部の本部長である市長が決定する。避難する必要がある人たちが行かれる最適な場所を避難所として指定し、アナウンスを行う。

【副市長】

令和3年5月に避難情報に関するガイドラインが変わった。市長が判断をして避難情報を発令する最初のステップは、高齢者等避難。発令の際には、広域避難所が開設できる状態でなければならないので、発令すると並行して、広域避難所の準備を行う。

一次避難所は、各地区によって開設される。市が高齢者等避難の発令をしなくても、地域の判断で一次避難所を開設して地域の人たちを受け入れるということが行われる場合がある。

フリーテーマ

■高齢者に分かりやすい案内について

【発言者】

市からのお知らせは、高齢者にも分かりやすい文章にしてほしい。

最近では、AI オンデマンド交通という言葉が出てきたが、何を言っているか分からないという人が多い。説明会を行うことを知らせてもらっているが、何のことか分からないため、説明会に出向く人が少ない。また、問い合わせをした際に広報紙で周知するということで、それまで待つよう言われた。ぜひ、高齢者等にも配慮して情報を提供してほしい。

【市長】

AI オンデマンド交通は、「チョイソコかりんちゃん」という愛称が決定したので、その名称を使用していく。分かりやすい説明を心がけなければいけないので、配慮するよう、庁内で共有する。

■寄附の依頼について

【発言者】

地区の中で、集金を担当する役員がいるが、市を通じて依頼が来る寄附金の集金に苦慮している。寄附金を集める時期を変更したいというような通知が来たとしても、急に対応できる体制でない。予め年間計画を出してもらうことはできないか。

【市長】

提案をいただいたので、年間計画を事前にお知らせすることを検討したい。

【健康福祉部長】

寄附金はいくつもお願いをしており、地区の皆さんにお世話になっていることに感謝申し上げます。なるべく負担がなくなるよう配慮をしているが、目安として年間計画が必要というご希望があれば、検討したい。

■通学路の安全の確保について

【発言者】

南部地区の学校再編整備にあたり、子どもたちが通学時に安全に学校にたどり着くことができるか心配している。ゆめスクールプラン南部地区推進委員会の委員の皆さんが協議をされているということだが、実際に通勤・通学の時間帯に集団で歩いたことがあって検討されているかお聞きしたい。

【教育次長】

実際に歩いてみたことはないが、神戸、細久保、武津から諏訪南中学校まで、一番遠いところでは 2.6km、その他にも 2.2km と把握している。通学路を確定する中で、ゆめスクールプラン南部地区推進委員会の委員の皆さんと実際に歩きながら確認したい。

■通学路の安全の確保について

【発言者】

南部地区の小中一貫校は、諏訪市の中で人口が増えている地域の一貫校として大きなテーマと感じている。

鷹野橋の歩道のタイルが剥がれて非常に危険なため、整備をしてもらいたいと要望を出している。諏訪南中学校までの間に、上社線には歩道がない区間もある。通学路が決定したら整備をするという話もあったが、歩道を設置するためには民地を買収しなければ歩道の分を確保できない場所もある。学校の敷地内の整備は大事だが、安全に登校できる環境も並行して検討してほしい。

また、国道 20 号諏訪バイパスが完成した後、バイパスを渡らなければ学校に行かれない子どもたちもたくさんいる。同じ時間帯に子どもたちが集中することから、安全に横断できるよう通学路を整備することも課題だと思っているので、早めに検討して、国道 20 号諏訪バイパスの整備計画の中に盛り込んでほしい。

【市長】

すでに要望をいただいている通学路の安全の確保については、担当部局で承知しているので、経過を見守っていただきたい。また、神宮寺諏訪線は、県道のため、市から県に要望を上げている。国道 20 号諏訪バイパスは、事業化が決定していないエリアで完成は先になるが、具体的なルートが見えているものなので、安全に横断ができるよう対応いただくことになる。どの場所をどのように渡るか、安全な通学路を設定するか、その時点での状況も踏まえて丁寧に設計と対応をしていく。

以上

開催日時・会場・参加人数

開催日時 令和 6 年 7 月 12 日(金) 19 時から 20 時 14 分まで

会 場 諏訪市中洲公民館 講堂

参加人数 18 人

令和 6 年度の主要事業について

■南部地区小中一貫校構想について

【発言者】

一貫校であっても、小学校と中学校の体育の時間はそれぞれにあり、また、小学校の運動会や中学校の体育祭などで体育館や校庭を使用する時間も増えるのではないかと思います。施設一体型の小中一貫教育学校で小学生と中学生が同じ校舎で学ぶ場合、諏訪南中学校の校庭や体育館だけで間に合うのかお聞きしたい。

【市長】

学校建設地については、現在の諏訪南中学校の敷地利用を考えているが、具体的な設計はこれからとなる。

今後、基本設計などを進める中で、各方面の意見を取り入れながら、子どもたちにとって最良な教育環境を整えられるように、検討していく。

フリーテーマ

■社会教育施設を含めた施設一体型小中一貫教育学校の構想について

【発言者】

教育施設には、学校教育施設のほか、社会教育施設もある。都会では、学校教育施設の中に社会教育施設の機能を含んでいるということがある。将来的に、市内に 3 つの施設一体型小中一貫教育学校ができるということだが、その中に社会教育施設を含める検討をしているかお聞きしたい。

【市長】

現在、学校ではコミュニティスクールの取組により地域社会との交流を行っている。社会教育は、趣味のサークルなどもあるので、全てを一緒にすることは難しいかもしれないが、可能性はあると思う。現段階で何とも申し上げることはできないが、できる部分を順々に取り組んでいく。

【教育長】

小中一貫教育学校は、社会に開かれた施設としても大事。全国的には、社会教育施設だけでなく福祉施設が一緒になっているところもある。市全体のコンパクトシティ化の方針に沿って検討したい。

■地区に加入していない市民のごみステーションの利用について

【発言者】

地区への加入は任意だが、地区がごみステーションを管理しているので、地区に入らない人はごみステーションを利用できないと言っても差し支えないのか分からない。現在は、市が管理しているパッカー車のごみの収集に来た際、直接排出してもらうのであれば構わない旨を伝えているが、その対応でよろしいか。

【市長】

市は、地区への加入を案内しており、加入していただくのがベストだが、強制はできない。アパートでは、管理者がまとめてごみの管理をしているところもあると聞いている。地区で管理するごみステーションを利用しない人は、直接、諏訪湖周クリーンセンター（eco ポップ）に持ち込むことはできる。

【市民環境部長】

地区のごみステーションの利用は、まずは地区に相談していただくようお願いをしている。パッカー車のごみの収集に来た際、直接排出していただくことについては、安全面からおすすめはできない。ご意見を承り、一定のラインを示せるよう考えたい。

→パッカー車は、ごみステーションのごみを収集することについてのみの委託となっている。安全面と委託契約の内容から、地区に加入しない市民が、パッカー車が収集に来たタイミングに合わせてごみを排出することはできない。

【発言者】

地区に加入していなくてもごみステーションを使用したいと申し出があった時に、ごみステーションを使うための費用を地区が決めてもよいのか？

【市長】

地区に加入しない市民がごみステーションを利用する際の費用を決めることについては、地区の運用の範囲と考えているので構わない。

■チョイソコかりんちゃんについて

【発言者】

今後の公共交通機関に関する取組の説明をいただきたい。

高齢化が進み、アクセルとブレーキの踏み間違いなどの事故も増えている。車の自動ブレーキなどシステムが発達しても最後は人間の判断。車がないと生活できない地域では、サポートがないと生活に支障がある。市ではどのような検討をしているか。

【市長】

定時定路線のバスは、乗客の減少や運転手の不足という課題がある。AI オンデマンド

交通「チョイソコかりんちゃん」は、希望するバス停で乗降車ができ、効率的なルートで運行する。タクシーも維持しなければいけないので、タクシーの営業の妨げにならないよう、バス停を利用する。

「チョイソコかりんちゃん」のテスト運行を 10 月から開始する。各地区で説明会を開催したが、職員が出向いて説明会を開催することもできるので呼んでほしい。

【企画部長】

「チョイソコかりんちゃん」は、バスとタクシーの中間のイメージの新たな公共交通。AI でルートを導き、バス停を利用して効率的に運行する。大型のバスで大量の人を運んでいた時代から個人に合った交通に切り替えていく方針。10 月からのテスト運行の最初の 2 か月間は、無料で利用できるのも、まずは乗っていただきたい。

■地区に加入していない住民のごみの出し方について

【発言者】

地区に加入していない人は、ごみステーションにごみを出してはいけない、地区では拒否ができるという解釈でよろしいか。

【市民環境部長】

地区に加入していない人は、ごみをごみステーションに「出してはいけない」ではなく、ごみステーションの管理を行っている地区に相談をしていただき、地区の判断に委ねている。個々の相談は、環境課にお願いしたい。

【発言者】

区長がごみステーションの使用を拒否することが法的に許されるのか。市ではっきり示すべき。長年問題になっており、禍根を残すのではないかと心配している。

【市長】

ごみの問題は、生活に直結する。「ごみを出してはいけない」ということは言えないが、地区がごみステーションを管理しているので、ごみステーションを利用することができない旨を伝えることはできる。その後、地区に加入しない市民から市に相談してもらいたい。地区は、ごみステーションを使う・使わないということを判断することができるが、ごみを出す・出さないということを言えるというわけではない。

■市民の市政への参加の促進について

【発言者】

市民の市政への参加が難しくなっていると思うが、日頃から、市民に市政への関心を持ってもらうことに関してアイデアを出してきている。市政懇談会で意見交換を行うのも市民参加だが、もう少しハードルを下げてもいいのではないか。毎月の広報すわを参考

にしているが、市民が広報すわに参加するということがない。他市町村の事例では、広報紙に障がいがある子どもの保護者のコラムが掲載されていたり、市長の定例記者会見がグラフィックレコーディングで可視化されていたりする。グラフィックレコーディングは、絵や図を用いて分かりやすく示しているので、このような仕掛けを取り入れてはどうか。

また、地域おこし協力隊のことを市民があまり知らないのではないか。不定期でも、広報すわにコーナーを作ってみてはどうか。

【秘書広報課長】

広報の目的を全うするとともに、市民に親しんでいただく広報紙を考えていきたい。

以上

開催日時・会場・参加人数

開催日時 令和 6 年 7 月 24 日(水) 10 時から 11 時 24 分まで

会 場 諏訪市文化センター 第一集会室

参加人数 20 人

フリーテーマ

■家庭系燃やすごみの手数料の使い道について

【発言者】

市から示された家庭系燃やすごみの手数料の実績を見ると、当初の説明と異なる使い道がある。家庭系燃やすごみの手数料のうち、燃やすごみ収集運搬等委託料としての使い道が約 75%になっている。有料化前の説明では、ごみの減量化などに使うということであったが、燃やすごみ収集運搬等委託料の項目はなかった。なぜこのようになっているのか。いつから燃やすごみ収集運搬等委託料に使うことに決めたのか。また、今後はどのようなになるのかお聞きしたい。

ごみステーション整備事業補助金は、1 つのごみステーションに対して 20 万円が上限である。1 か所のごみステーションを 150 軒で使うので、補助金の上限 20 万円では整備ができない。人口や地域の広さなど規模に見合った方法を検討してほしい。

生ごみ堆肥化容器等設置補助金があるが、1 万円ほどは自己負担が生じるので、全額市で補助し、生ごみの減量化を図ってほしい。

金子市長になってからごみの問題から遠のいているように思う。できるだけ市民の声を聞く機会を設けて取り組んでほしい。そういった考えがあるか。

【市長】

家庭系燃やすごみの有料化は、ごみ袋を購入していただく形にした。岡谷市、下諏訪町と共同でごみ処理を行っている。岡谷市と下諏訪町は、既に有料化をしていたが、当市は有料化を控え、市民の皆さんの努力をお願いしてきた経過がある。リユース、リデュース、リサイクルを進めるため、有料化をした。

ごみステーション整備事業補助金は、リクエストをいただいて、市長就任後に用意した制度。規模に見合った金額にすることについては、今後の参考にさせていただく。

家庭系燃やすごみの有料化を行う時に、2～3 年かけて丁寧に説明をしてきた。もっと市民の皆さんの声を聞くよう心掛けていく。

状況の違う市民の皆さんがいる中で補助金の制度を作っているので、生ごみ堆肥化容器等設置補助金も全てを市が負担することについてどのように思われるかということにも耳を傾けなくてははいけない。全額ではなく一部の補助で、市民の皆さんにも一部の負担をお願いしている状況。

【環境課長】

家庭系燃やすごみの手数料収入は、5 千万円強。内容は、ごみステーションの整備事業、

生ごみ処理機の補助金などに使っている。燃やすごみの収集の委託料に充てる部分が多いということであったが、収集委託に充てていることは事実。ごみの減量化を図るため、全額補助は難しいが、補助金などに充てて市民の皆さんに還元していきたい。家庭系燃やすごみの有料化の前に配布した資料に明確に燃やすごみ収集運搬等委託料に充てることは書いていないが、ごみの減量化に要する費用に使用すると説明しているのでご理解いただきたい。

【市長】

地球温暖化に対して私たちができること、一人一人が協力体制を整えること、市が進めるべき仕事に有効に使わせていただくという意味であると理解している。衛生管理に関する事業は、変化していく。ごみステーションに関する課題をいただいたので今後充実させていくことが可能。家庭系燃やすごみの手数料の収入は、当初決めたメニューにだけ使用し続けるということではない。

当時から大変熱心にごみの問題に取り組んできていただいたことを理解したので、担当課と話す時間を作りたい。

■「諏訪よいてこ」について

【発言者】

「諏訪よいてこ」は諏訪市の夏のイベントに位置付けられていると思う。昨年、祭りは再開したが、踊り連が少なくなり、祭りの規模が縮小してきている。市としてこの祭りを盛り上げることを考えているか。また、市職員は何名程度が祭りに参加するのか。

【市長】

「諏訪よいてこ」は、諏訪よいてこ実行委員会が主催している。諏訪市長が会長、諏訪商工会議所の会頭が実行委員長、ほかにも諏訪観光協会など多くの方が関わっている。元々は、諏訪圏青年会議所の皆さんがまちを盛り上げようと始めた祭り。市の主催ではないが、市民まつりとして盛大にできることが喜ばしいので、市長が会長に就任し、市職員が実行委員会のメンバーとして協力体制の中で行っている。職員は、裏方のスタッフとしてのほか、諏訪市職員互助会として踊り連に参加している。

かつては、湖南地区などからバスで参加する踊り連もあり、大きな規模だったが、縮小した直接の原因は、コロナ禍で数年中止になったこと。高齢化が進んだこともある。継続するということは力強く、一旦途切れて4年が経過するとV字回復は難しい。徐々に回復に向かっていく。個人の気持ちとしては、子どもたちにとってもお祭りは楽しいものなので、盛り上げたいとおっしゃっていただいたことに同感である。

【副市長】

市の「諏訪よいてこ」への関わりは、特に部課長級職員の多くが実行委員会として裏方の仕事に従事する。また、諏訪市職員互助会として踊り連を組織して参加している。若手

職員を中心に 30 名ほどの踊り連を組織できるよう参加者を募集し、現在踊りの練習中。
今年も同じくらいの規模で参加したい。

■スクリーンに投影する資料について

【発言者】

スクリーンに投影する資料が見つらい。もう少し大きく投影してほしい。また、説明の際、ポインターを使用した方が分かりやすい。要約筆記のスクリーンは、文字が大きく分かりやすい。

【市長】

今後の参考にさせていただく。

■AI オンデマンド交通の料金について

【発言者】

1 回 500 円の料金設定の場合、行ったまま帰ってこないということは想定しづらいので、帰りにも 500 円で合計 1,000 円かかる。塩尻市の AI 活用型オンデマンドバス「のるーと」は、7km 以内であれば 1 回 200 円。7km 以上は、1 回 400 円。同じシステムで 500 円の料金設定は高く感じる。7km という距離は、市内のほとんどをカバーできるように思う。ガソリンの価格が反映されているとしても、塩尻市と諏訪市は距離的にそれほど離れておらず、変わらないと考えると価格設定がおかしいのではないかと。塩尻市が実現できることを諏訪市でできないということはないと思うので、塩尻市の価格を採用してはいいかがか。

また、既に AI オンデマンド交通を導入している塩尻市に話を聞きに行ってみてはいいかがか。AI オンデマンド交通を利用しようと思っているので、安い方がよい。諏訪五蔵めぐりなどで遠くから来た人も、運転手の心配をせずに済むので、利用が増えるように考えてみてはいいかがか。

バスは、世界共通で低所得者が最も利用するため、低額でなくてはならない。タクシーとの住み分けや他のバスとの住み分けという話も理解はするが、やはり安くなくてはならない。住み分けのために価格を高くするのは違うと思っている。

塩尻市の AI 活用型オンデマンドバス「のるーと」に乗ってみると、多くの人が乗って来る。安いということは多くの人に乗ることにつながる。薄利多売で多くの人に使ってもらって存在価値が出る。

【市長】

AI オンデマンド交通の業者は、公的なルールに沿って選定したため、塩尻市のシステムをそのままという分けには行かない。他のシステムもある中で、当市の条件を示し、最適な事業者を選定した。

テスト運行は 1 年間で、1 回 500 円という料金設定をした。65 歳以上の人と障がい

のある人は、250 円。従来のかりんちゃんバスは、運転免許を持たない利用者が多い。そういった人の利用を見据えて、65 歳以上の人と障害のある人は半額という料金設定をした。

テスト運行開始から 2 か月間は無料で利用できる。乗り方に慣れていただき、その後の 2 か月間は異なる条件設定でテスト運行を行う。来年 10 月の本格運行の際は、公共交通協議会を経て最終的に決定する。

【企画部長】

塩尻市の AI 活用型オンデマンドバス「のるーと」を視察した。塩尻市は、全域で運行しているわけではなく、エリアを区切って運行している。当市は全域でスタートする。また、路線バスと比べ、時間がかかなり短縮でき、利便性が高まるため、料金はバスより高い設定。バス停からバス停への移動をするバスであり、タクシーではないため、タクシー事業との住み分けも大きなテーマ。タクシー事業を圧迫してはいけない。日中に自分で動ける高齢者をターゲットにスタートしたく、テスト運行により価格や時間などのことを検討したい。ぜひ、利用していただき、ご意見をいただきたい。

価格は、安い方が良いので、65 歳以上の人や障害のある人は半額で利用できるようにしている。テスト運行を重ねてご意見をいただきたい。

【市長】

塩尻市のほか、佐久市、小諸市なども視察した上で、当市の事情に合わせて選定した。多くの人に利用してもらえば価値が上がるのはそのとおり。無償で利用できるとなると、公共交通事業ではなく福祉事業に該当する。前提は、自分の力で移動ができる人を対象にした公共交通システム。説明会も開催しているので、呼んでいただきたい。

【発言者】

AI オンデマンド交通の説明は、市役所に出向いて聞いてきた。登録も済ませ、利用しようと思っている。

以上

開催日時・会場・参加人数

開催日時 令和 6 年 7 月 24 日(水) 19 時から 20 時 19 分まで

会 場 諏訪市文化センター 第一集会室

参加人数 25 人

フリーテーマ

■上諏訪駅西口への改札口の設置について

【発言者】

現在、上諏訪駅の西口には改札口がないが、今後、設置することは可能か。

【市長】

上諏訪駅周辺の開発は、事業主体が複層的。上諏訪駅の改札は、鉄道事業者の事業に該当し、東日本旅客鉄道株式会社の事業になる。

かつて、西口に改札があった方が良いという話をしたことがあった。当時は、上諏訪駅の規模で 2 つの改札口を運営することは考えていないとの話だったが、技術の発達や時代の変遷でその判断が変わる可能性もあるのではないかな。

改札は、東日本旅客鉄道株式会社の判断になるが、市では、上諏訪駅西口広場整備事業の基本構想を策定する。段階を踏み、東日本旅客鉄道株式会社にも関わっていただきながら、上諏訪駅やその周辺について対話をしながら考えていきたい。

■選択制の通学区の検討について

【発言者】

清水町区と赤羽根区の子どもたちは、上諏訪小学校まで 30 分ほどかけて歩いて行く。先日、岡谷市で連れ去り未遂事件が発生したことや最近の暑さを考えると心配。中学校は、諏訪中学校に通うことになるようなので、諏訪中学校に通うことが分かっているならば、小学校の時点で城南小学校に通えるのが良いのではないかなと思っている。中学校が諏訪中学校になることで、友だちと離れてしまい、不登校になる子が多いとも聞いている。30 分かけて上諏訪小学校に通うより、選択制にして城南小学校に通えたら良いと思う。近い学校に通いたいという人が多い。松本市の私立学校に通っている子がいることも考えると無理なことではないと思うので、子どもの安全を考えて早急に検討いただきたい。

【市長】

学校のあり方を検討しているところなので、参考にしたい。

小学校は、通学区制のルールによるので、地区により通う学校が決まっている。選択制という可能性もあると思うが、勝手には決められないので、段階を踏んで合意を形成することになる。

【教育長】

ご心配の旨がよく理解できる。過去の経過から現在の通学区が定められている。通学区の変更には、地区の方々など様々な方の合意が必要で、選択制に変更する場合も同様。ご意見を参考にしながら、学校の再編の中で通学区の編成も検討したい。

■地区子ども会について

【発言者】

ラジオ体操や地区の行事を地区子ども会で行っているが子どもが少なくなっている。また、私立の小学校、中学校を選択する家庭も増えており、地区子ども会の行事に参加する子は公立学校に通う子がメインになっている。私立学校に通う子を呼びたくてもその術がない。地区子ども会が何のために存在しているか分かりづらくなっており、参加する子どもが楽しくなさそうで、行きたくないと言う。時代とともにあり方を考える必要がある。様々なやり方があると思うので、今の時代にそぐわないように思う。地区子ども会の主体が分からないので、ここで提案させていただいた。

また、嫌々参加する子どもたちも多いので子どもの声をヒアリングしてほしい。

【教育長】

地区子ども会の主体は、地区によって若干異なる。PTAの校外指導委員会、育成会、町内会など主体が様々。規模に合わせて、どのように地区の行事を行っていくのかは時代に合わせて検討する必要がある。お互いの顔が見える関係性は、防災の観点を考えても必要で、どのように作っていくか検討が必要。

【市長】

時代とともに形が変化することも大事。また、今は嫌々参加している子が楽しいと思って参加する可能性もある。関係者が話し合い、知恵を出し合うことが必要。

■新型コロナウイルス感染症の治療薬への補助について

【発言者】

最近、新型コロナウイルスの感染者が増えているとのことだが、治療薬が公費負担でなくなり、医療費の自己負担割合に応じた自己負担が生じるようになった。治療薬は高額なので、市独自の補助を検討することはできないか。

【健康福祉部長】

医療費は、他の疾病同様、補助の検討はしていない。

詳細は未定であるが、秋から高齢者を対象にワクチン接種が始まる。これまでは無償であったが、自己負担が生じるため、自己負担分に関して制度を作る検討をしている。

■空き家から伸びる庭木の手入れについて

【発言者】

地区内に所有者が不明の空き家がある。庭木が伸びているが、剪定の費用を出していただけるようであれば検討していただきたい。

市の担当課と連絡を取り、話をしているが、どうしても連絡が取れない人や連絡が取れても対応しない場合がある。電柱にまで伸びてしまうようなケースもある。市ではどのように考えているか。

【市長】

空き家は、持ち主に管理責任がある。健康被害など悪い影響を出しているような場合は、危険を広げないように行政代執行ということも考えられるが、庭木の場合は管理責任者が管理するのが基本。持ち主に連絡を取るお手伝いはできるので問い合わせをいただきたい。

【副市長】

まずは、市で個別の案件を把握させていただきたい。電柱に伸びている状況が、どの程度の危険性があるかなどを把握したい。個人が所有しているものに対して行政が何かを行うことは、法的にも難しい。現場を把握して一緒に検討していきたいので、担当課にご相談いただきたい。

【市長】

市では、空き家の所有者向けの補助制度も用意しているので案内をさせていただきたい。

■地区の再編について／消防団について

地区の高齢化が進み、役員の成り手が少ない。地区は地区で頑張るが、地区の主導ではなく、市からのアプローチにより地区の再編を一緒に考えていかれると良い。

また、消防団の成り手がいないというのではなく、人がいないという状況。他市町村でも行っているように地区担当を作るのがいいのではないか。

【市長】

上諏訪地区において、お聞きしたような悩みを抱えている地区は多い。市長に就任してから、地区の課題を一緒に考えるため、現在の地域戦略・男女共同参画課を作った。行政からこの地区とこの地区を一緒にするというような指示はできないが、地区で主体的にこの地区と一緒にということであれば、仲介することはできる。担当課にご相談いただきたい。

■荒廃した畑や森林の整備について／市内の景観について

【発言者】

諏訪の諏訪湖があり、山がある景色が大好き。立石公園まで歩いて行く道のりで耕作し

なくなった畑が荒れているのが気になる。自然災害から守るためにも山に手を入れることが大切なので、市、県、国の補助により山全体の手入れができないかと思っている。

空き家対策が進み、古い建物は解体されている。国道沿いを車で走っていると、ぽつぽつと空き地ができており、まちなかの建物がなくなってしまうのではないかと寂しくも感じる。これからどのようになるか見守っていきたい。

【市長】

里山が荒れてしまうことによる心配はそのとおりで、長野県では森林税により、里山の整備に充てている。国では、団体有林への補助金はあったものの個人有林には補助がなかったため、森林環境税が創設され森林整備に活用することになった。

かつては、山がきれいに手入れされていた。海外から入って来る材木が安価で競争力を失い、また、産業の構造の変化から山林の仕事に携わっていた人が離れるなどにより山に手が入らなくなった。

耕作しなくなった畑を誰かに耕作してもらう仕組みは、現状ではない。人口減少の影響もあると思う。担当課や専門家と意見交換をしてみたい。

空き地に関しては、廃屋が残っているよりさら地の方が次への展開が早くなるので、可能であれば除却を勧めている。これまであったものがなくなることには寂しさを感じると思うが、長いスパンで見えていただき、新たに人を呼び込める環境を整えば、そこから民間の力を呼び込む力が生まれるのではないかという期待がある。

以上